

西尾市
学生議会

令和2年11月2日 午後2時から午後3時まで

鶴城体育館 柔剣道場

総合政策部長／高原 浩

皆さん、こんにちは。予定の時間となりましたので、ただいまから学生議会を開催させていただきます。

私は、進行を務めさせていただきます、総合政策部の高原と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、市からの出席者を紹介させていただきます。

まず、正面右側は中村市長です。左側が近藤副市長です。続きまして、今日の議題の関係部局ということで、内藤交流共創部長です。山本危機管理局長です。そして、この学生議会を担当させていただいております犬塚秘書広報広聴課長です。高須課長補佐です。福井主任主査です。以上、総勢8人でお邪魔をさせていただきました。

本日は、貴重なお時間をいただきありがとうございます。この学生議会は、西尾市の将来を担う若い世代の皆さんから、まちづくりに関するご意見やご提案などをお聞きしまして、未来に夢や希望が持てるワクワクする西尾市の実現に向けて参考にさせていただくとともに、皆さん方には市政に対する関心や理解を深めていただいて、共に考えていただくことを目的に開催するものでございます。

開会の前に、本日、配付をさせていただきました4種類のパンフレットがございますが、これに触れさせていただきます。

1つ目は表紙に「24 にしおじかん」、2つ目は「頑張るものづくり企業 in 西尾」、3つ目は「ローカル就活ガイドブック～ローカルではたらこう～」、最後、4つ目は「ムゲンのミライ」でございます。

私たちが暮らす西尾市は、年間を通じて比較的温暖な気候で、土地の価格も近隣市と比べて安く、生活をするにあたり恵まれた地域であります。また、子育てや教育環境からも、若い世代の人たちから「日々の暮らしを楽しみながら子育てできる環境」というご意見もお聞きしております。

産業面においては、県内有数のものづくりの集積地となっておりまして、将来性のある企業や高い技術力を有するものづくり企業が多くあり、雇用面においても比較的安定しております。

皆さん方は、卒業後、進学などで一時的に西尾市から離れる方もいらっしゃるかもしれませんが、将来はぜひ、この西尾市に戻ってきていただきたいと思っております。

お配りしたパンフレットは、西尾の魅力を紹介するものでありますので、後ほどゆっくり見ていただければ結構です。

なお、本日は、記録用として写真撮影と録音をさせていただきますことをご了承ください。

それでは、開会にあたり、中村市長からご挨拶を申し上げます。

市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村健です。

本日は、鶴城中学校での学生議会ということで、皆さん、御参加いただきまして、本当にありがとうございます。

校長の岩瀬豊治先生は、僕は時々言っているのですけれども、自分が小学校4年生か

ら6年生まで担任をしてもらった先生であります。当時は非常に血気盛んで怖かったのですが、僕の小学校、中学校を振り返って一番記憶に残っている先生は誰ですかというと、岩瀬先生でありまして、その鶴城中学校で開催できるというのが個人的にうれしかったです。

ちょっと真面目な話になりますけれども、皆さん、公民の時間で民主権とかは習いましたか。これというのは、日本の政治とか行政のシステムの中で主権者、要は主役は国民の皆さん一人一人ですということになります。その国民の皆さんが一番主権者として権利を行使をするときはいつかということ、選挙のときになります。選挙のときに誰を選ぶかというのが主権者としての責任であり、権利なんですけれども、まだ皆さんは18歳未満でありますので、選挙に行く投票権はないのかなというところになります。

ただ、西尾市でのまちづくりとか、将来どのようになるのかというのは、皆さんそれぞれ、いろいろな考えや思いがあると思います。ですが、選挙権がないから話を聞きませんというのも変な話ですし、そういった若い皆さんの意見を僕らがしっかり取り入れて、皆さんが大人になっても西尾市で暮らしたいとか、西尾市で頑張りたいと思えるような西尾市にしたいという思いで、この学生議会というものを開催させていただいております。

今日は、3つテーマがあって、それぞれ質問を受けることになっています。僕も真剣に答えさせてもらいたいと思いますし、3つのテーマが終わった後に、多分自由な意見交換などもあると思うので、緊張はするかもしれませんが、遠慮なく、どんどん意見をぶつけてもらえればうれしいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

総合政策部長／高原 浩

本日の学生議会は1時間を予定しております。皆さんからいただいたご意見や提案などに対しては、市長あるいは担当部長などからお答えをさせていただきます。発言は座ったままで結構です。お茶が置いてありますので、お茶を飲みながらリラックスしてお話ししてください。

それでは、ただいまから始めてまいります。初めに提案シート1番、近藤さんからお願いします。

1番／近藤梨渚

3年生の近藤梨渚が提案と質問をします。よろしくお願いします。

それでは、提案シートの説明をします。

デジタル庁の創設に向けて、政府がデジタル化を推進しようという動きのある中、小中学校や市役所では、紙媒体を通じて行う手続や配布物が多く、デジタル化に向けての動きが市民目線からは遅れているように感じています。

SDGsや働き方改革などの取組が進められたり、コロナ禍での新しい生活様式が求められたりする中で、公的機関においてもデジタル化を積極的に進めていくべきだと考えます。現状では、紙媒体での個人情報管理や不要となった用紙の廃棄問題、用紙のコスト、印刷などの事務作業における労働時間などの多くの課題を感じているため、新たなシステムを求めたいと考えています。

そこで、5つ提案をします。

1つ目は、小中学校で毎月配布される献立表などは、各小中学校のホームページ内のブログで月初めにアップして、紙での配布をやめます。ただし、部外者に見られてはいけない内容については、関係者だけが見られるようにパスワードを入力してログインするシステムをつくることはどうでしょうか。

2つ目として、市役所などの公的機関のシステムとして、住民票など個人を証明するものを発行する際は、マイナンバーの入力と顔認証システムを導入し、データで受け取ることができるようにします。

3つ目は、婚姻届や出生届などの申請するものについては、市役所のホームページから自宅でも入力や申請できるようにしたらどうでしょうか。顔認証システムについては、スマートフォンやコンピュータのカメラを利用することで可能になると思います。

4つ目は、政府または各市町がアプリを開発することです。個人がマイナンバーとパスワードを入力するとログインできるようにして個人情報管理し、そのアプリ内の住民票や婚姻届、出生届などの項目をクリックするとQRコードが表示され、コンビニエンスストアに設置してあるマルチメディア端末にスキャンすることで発行できるようにするのはどうでしょうか。

5つ目として、医療施設と連携することです。新型コロナウイルス感染を証明する診断書の発行を自宅でもデータで発行できるようになれば、感染中でも会社などに証明することが可能になると思います。

次に、これらの取組の効果としては、コロナ禍でも人を介さずに手続を円滑に行うことができたり、用紙のコストや事務処理による労働時間を削減することができたりします。不要となった用紙の廃棄量を削減することで、エコ活動にもつながっていきます。また、顔認証システムや指紋認証システムを取り入れることで、個人情報の管理を強化でき、アプリを活用することで端末のセキュリティ面においても強化できると考えます。

情報をデータ化することで、紙媒体が必要な場合は、個々で自宅や24時間営業のコンビニエンスストアで印刷することができ、有効期限をデータ内に設けておくことが出来れば、悪用されたりする心配も少なくなるのではないのでしょうか。

一方、問題点としては、通信環境が悪くアクセスできなかつたり、情報通信技術を使える人と使えない人の差が生まれ、情報格差が今までよりも大きくなったりするなど、社会問題として捉えられる可能性があります。

また、全世界のデバイスからのアクセスやハッキングなど個人情報の漏えいについても心配されます。さらに事務作業の減少に伴い、勤務形態の変化や勤務場所の減少により雇用における問題が発生することも考えられます。提案は以上となります。

そこで、質問します。

デジタル化の促進に対して、市長がどのように考えてみえるのか、また西尾市がどのようにデジタル化を進めているのか教えてください。さらに、デジタル化を進めた場合、高齢者の方などデジタル化に対応しきれない世代や市民へは、どのようなケアをお考えでしょうか。

提案した内容についての考えも含めてご意見をお聞かせください。

総合政策部長／高原 浩

近藤さん、ありがとうございました。発言が終わりましたので、市長からお答えをさせていただきます。

市長／中村 健

近藤さん、時代の流れに沿った提案、質問をありがとうございます。

デジタル化について、5つ具体的な提案があったと思うのですが、そこについては参考にさせてもらいながら、西尾市として出来ることは取り入れていきたいということで、そこまで話すと時間が長くなってしまいますので、全体的なところで話をさせていただきます。

デジタル化しなくても、毎日の生活に困ることは多分ないだろうと思いますが、デジタル化を進めることによって、すごく便利になることはたくさんあると思っています。

今まで、デジタル化を早くしないといけないということがいまいちピンと来ていない人が多かったと思うので、余り日本全体で進んでいなかったのですが、新型コロナウイルス感染症が拡大していく中で、触れる、接触することが余りよくないという話になったりだとか、あとは国の総理大臣がかわって、今の菅総理大臣がデジタル化をしっかり進めていきましょうということで、大きく流れが変わったと思っています。

西尾市においても、これまでもデジタル化はやってきたのですが、それよりももっとアクセルを強く踏んで、力強くやっていきたいと思っています。

具体的にこれまでやってきた取組みを紹介させようと思うと、実は、今年に入ってから2回ほど、P a y P a yで支払いすると何%ポイントが戻ってきますよということを西尾市だけでやっていました。P a y P a yというのは、いわゆるキャッシュレス決済で、普通に財布の硬貨とかお札とかを使わなくても携帯のスマホだけで全部会計処理が出来てしまうということですが、それをP a y P a yさんと一緒になってやっていましょうという話を、実は日本で初めて西尾市がしました。これは西尾市にとって自慢できる場所だと思っています。

ほかには、皆さん、L I N Eは使っている人と使っていない人がいるかもしれませんが、L I N Eというのは、おじいちゃん、おばあちゃんなども含めて日本で一番使われているSNSです。日本の人口が大体1億2,000万人をちょっと超えるぐらいですが、8,000万人近くの方がL I N Eを使っていると言われています。これまで西尾市がどういうことをやっていますということは、主に「広報にしお」が月に1回、皆さんの自宅にも配られていると思います。それがメインなんですけど、見ている人は見ているけれども、見ない人もいるという中で、このチラシはあとで配ってもらえるようですが、今年の8月から「西尾市L I N E公式アカウント」というのを始めました。

これは、西尾市を友達登録してもらおうと、西尾市のほうから特に重要だと思うお知らせについては、直接L I N Eを通して、こういうことをやりますよとか、こういうことを募集していますよとお知らせしますで、わざわざ広報を見なくてもいいということにもなりますし、広報だと月に1回しか発行されないけれども、L I N Eは毎日やっていますので、非常にタイムリーに情報を得ることが出来るということで、こういうことも進めています。

次に、今、判こ、印鑑について、手続で必要でないものは判こがなくてもいいように

しようという流れがあるのは知っていますか。これは、西尾市役所の手続などでも進めていくのですけれども、ただ判こを押さなくてもいいよというだけではなく、手続自体を、要はスマホやパソコンなどを使用してオンラインで出来るような取組みも同時に進めていこうと考えています。それをやると大分便利になって、要は市役所にわざわざ来ないと手続できなかったことが家から出来るようになるということで、そういったところも進めていきたいと思います。

次に、学校のことで、細かいところは教育委員会が決めるのですけれども、タブレット端末は皆さんに1台配布されましたか、されるというのは聞いていますか。そうすると皆さんの手元にiPadが届きますので、それを使って学校と生徒の皆さんとの連絡のやりとりが出来るようになります。具体的にどうやって使っていこうというのは、今、教育委員会や学校の先生方に考えてもらっているのですが、一番それを使いこなせるのは誰かという、多分皆さんなんですよ。そうすると、皆さんのほうから逆に先生などにこういった部分をもっとオンラインにしましょうとか、デジタル化しましょうというのを積極的に意見を出してもらえるのがよいのではないかと思います。

僕のほうも教育委員会と協力しながら、学校の中の連絡事項をはじめ、そういうこともデジタル化していきましょうという話はするのですけれども、ぜひとも生徒の皆さんからも声をどんどんあげてほしいと思います。

最後に、デジタルに弱い人に対してという話があって、それは本当にそのとおりだと思います。ただ、デジタルに弱い人がいるからデジタル化するのをやめましょうではなく、デジタル化を進めていく中で、そういう人たちも余り困らないようにするにはどうしたらよいのかという考え方が大事だと思います。

今、西尾市では、無料のスマホ教室などをやっています。スマホ、スマホというけれども使い方がわからないというおじいちゃん、おばあちゃんなどを中心にして、少しでも親しんでもらおうという取組みを行ったりして、デジタルは弱くて、よくわからないなどという人が減るような形に努力はしていきたいと思います。

そういった形でゼロにはならないかもしれないけれども、デジタル化を進めるのと同時に、余りデジタル化が得意ではない人に対しても切り捨てることはしないような形で、そこは責任もってやりたいと思います。

最後に、デジタル化とか情報化というときに、必ず言われることがセキュリティの安全性の問題であります。これは、僕は専門的に詳しくないのですが、考え方としては、確かにそういうリスクは高まると思うので、そこは考えないといけないと思います。リスクがあるからやめましょうではなく、さっきと同じで、進めていく中でどうリスクを少なくしていくかということを考えることが大事で、今さらデジタル化をやめようというのは現実的ではないので、いろいろなものが便利になる中で、そういう情報が外に漏れてしまうとか、そういったセキュリティをどうするかということを考えていくことが大事だと、そういうふうに思います。

以上です。

1 番／近藤梨渚

ありがとうございます。私の提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。

ありがとうございました。

以上で私の質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。

それでは、続きまして提案シート2番目です。浜崎さん、堀内さん、名倉さん、よろしく申し上げます。

2番／浜崎祥太郎、堀内留楓、名倉美琴

3年生の浜崎祥太郎と堀内留楓と名倉美琴が提案と質問をします。よろしく申し上げます。

それでは、提案シートにしたがい、説明します。

僕たちは西尾市のスポーツを活性化させるために何ができるか、幾つかの案を考えました。

まず、西尾の運動施設は場所がバラバラであるため、移動時間がかかったり、設備が完全に整っているところが少なかったりと不便に感じることがあります。また、プロのスポーツ選手による試合が行われることが少なく、さびしく感じますし、スポーツをする人自体が限られているとも感じます。部活動やクラブ等に所属をしていれば、日ごろからスポーツに親しむことができますが、それ以外の人は余り親しむことができません。

そこで3つ提案します。

1つ目は、多くの人を市内からも市外からも集めるために総合運動公園をつくることです。

現在、市内で一番設備が整っているといえる総合体育館周辺や西尾東高校北から東にかけての土地、もしくは戸ヶ崎町周辺の田んぼ、八ツ面山北東の土地を使い、野球場、サッカーグラウンド、陸上競技場、テニスコート、さらにソフトボールやゲートボール、グラウンドゴルフなど幅広い用途に利用できる多目的グラウンドを新設します。また、ラケットやボール等の道具も完備させ、手ぶらで来ることができるように設備を整えます。

野球場はプロ選手でも試合が行えるような本格的な球場、サッカーグラウンドは人工芝、陸上競技場はタータンにして、そして観客席を設けて、多くの人が入れるようにします。全ての施設に夜間でも練習や試合ができるようにライトをつけます。

2つ目は、イベントを開くことです。現在、西尾市民体育大会が行われていますが、いずれもスポーツ団体などが対象で、一般の方は余り親しむことができません。そこで、市民全員が対象の簡単なイベントを開催することを提案します。

例えば、玉入れ、綱引き、借り物競争など誰でも楽しめる運動を地域別、年齢別で行うのはどうでしょうか。また、このイベントを1つ目で提案した施設で開催したら、大きなイベントとしてたくさんの人に来ていただき、多くの人がスポーツに親しむ機会になると思いました。

さらに、バドミントンやダンスなど、初心者の方でも行いやすいスポーツイベントを企画することで、より多くの人にスポーツの楽しさを知ってもらうこともできます。

3つ目は、プロのスポーツ選手による試合を開催したり、西尾市出身で活躍している

選手を知ってもらうために、西尾市の企業などにスポンサーについてもらい、宣伝するという案です。

現在、女子バレーボール選手の宣伝がショッピングモールなどで行われていますが、駅や人が多く行き来する場所で宣伝し、より多くの人に知ってもらうことで、スポーツに対する関心が高めるというねらいです。宣伝方法は、ポスターや看板、横断幕を考えました。また、これらの広告のデザインを市の小中学校、高校、会社を対象に募集したら、市民が一丸となれるきっかけになると思いました。

取り組みの効果として、次のことが挙げられます。

まず、総合運動公園の新設については、岡崎市のようにプロ野球の試合に使用したり、遊具で遊ぶために多くの親子が訪れたりすることで、市内だけでなく市外からの集客も期待できると考えられるため、西尾市が活性化すると思えます。

また、設備が十分に整ったサッカーグラウンドや陸上競技場、野球場を新設することで、これまで総合グラウンドだけでは不便に感じていた人の不満も軽減できるのではないかと考えます。

さらに、運動会など練習が不要な気軽に行えるイベントを企画することで、子連れの方や友人と参加する学生、健康に気をつかう年配の方など幅広い層の方に多くのスポーツを体験してもらうことができるのではないかと考えます。

そして、西尾市出身のスポーツ選手をより多くの人に宣伝することで、スポーツに関心をもつ市民が増えるのではないのでしょうか。

取組を行った際に考えられる問題点としては、総合運動公園については、新設するのに必要な土地と費用があるのかどうかということです。また、プロのスポーツ選手を宣伝するための広告費がかかるということも問題点として挙げられます。

そこで3つ質問します。

1つ目は、運動会のようなスポーツイベントを開催することについて、このイベントはすべての年齢の人が楽しめて、スポーツに馴染みのない方や家族でも参加できるイベントとして考えましたが、実際に参加してみたいと思いませんか。

2つ目です。プロのスポーツ選手の宣伝について、市民が一つになれるように小中学校、高校、企業に広告のデザインを募集するという案ですが、実現することは可能ですか。

3つ目です。より多くの方がスポーツに親しむことができるように、市ではどのような取組を行っていますか。

提案した内容についての考えも含めて、ご意見をお聞かせください。

総合政策部長／高原 浩

浜崎さん、堀内さん、名倉さん、ありがとうございます。

発言が終わりましたので、市長、お願いします。

市長／中村 健

質問と提案、どうもありがとうございます。

スポーツをテーマにした内容については、聞いてほしかった気持ちが半分と聞いてほしくなかった気持ちが実は半分あります。なぜかと言いますと、一つは、西尾市がほかの

市と比べてスポーツをする環境が弱いというか、もう少し充実させないといけないという考えが僕の中にあるのと、あとはスポーツというものが、西尾市の活性化を考えていく上で実はとても重要ではないかと考えています。

理由は、特に中学生、高校生ぐらいの皆さんは、部活などもやっているし、スポーツは打ち込めるものだったりすると思います。あと高齢のおじいちゃん、おばあちゃんなどにとっては、スポーツをやり過ぎるとよくないかもしれないけれど、適度に体を動かして運動するというのは、健康を維持していく上でとても大事なことだと思います。また、一応来年度、東京オリンピックが開催される予定ですし、2026年にはアジアのスポーツの大会が愛知県で行われることになっています。

そうすると、見るスポーツというのは、年齢とか性別に関係なく、みんな一つになれたりしますよね。そうするとスポーツはとても大事なのではないかと僕は思っています。そういう中では、西尾市がこれから力を入れてはいかないといけないものの代表的なところだと思います。

具体的に質問してもらったことに対して答えていきますと、誰でも参加できるようなスポーツイベントがあれば、僕は参加したいと思います。市全体でそういった運動会みたいなことをやるのもひとつの方法だと思いますけれども、西尾市も17万人ぐらいいますので、それを総合グラウンドとかでやろうと思うと、なかなか参加できる人が実際には限られてしまうのではないかと思います。

僕のほうから1つ提案というか、考え方をお話しします。西野町小学校出身の人っていますか。地域の運動会をやっていますよね。ああいうのが大事だと思います。今、皆さんの住んでいる近所の何々町ってありますよね。ご近所づきあいが弱くなってきたりして、地域のつながりが段々弱くなっている時代なんですけど、災害が起きたときなどは、やっぱり近所の人たちが助け合わないといけませんし、皆さんが登校しているときも、実は近所のおじいちゃん、おばあちゃんが見守りをしてくれたりもしています。そういう近所の人たちのつながりを強めるためには、そういう運動会とかを、例えば西野町小学校区ではやっています。それを、小学校区ごとぐらいでやると、今まで知らなかった人とも知り合えるし、知っていた人とのつながりも強くなるので、そういうことをやるといいのではないかと思います。

2つ目のプロスポーツ選手の宣伝についてということで、デザインとかキャッチフレーズを募集することは当然できますし、これからもやっていきたいと思っています。今、女子バレーボールチームのデンソーエアリービーズというチームが、西尾市をホームタウンにしてくれていて、西尾市としてはそのエアリービーズを全力で応援しています。市役所だけでなく、バレーボールを経験したことがある人はもちろんですし、そうではない人たちにもそういうスポーツを通じて西尾市が一つになってほしいので、関心をもってほしいと思っています。

今、市役所とかに行くと、エアリービーズの旗が駐車場にかけてありますが、そのキャッチフレーズなどは、市民の人に募集をして決めたりしています。先ほど言ったように、東京オリンピックは直接西尾市が関係することは少ないかもしれないけれど、アジアの大会などもあったりすると、やはりみんなで輪を広げていくということが大事なので、学生の皆さんはもちろんですけども、西尾市に住んでいる人、西尾市で働いている人に

対して、こういう大会とか、こういうイベントがあるときにデザインを募集したりだとか、キャッチフレーズを募集したりするというのは良い方法だと思います。どの大会でやりますとかということはこの場で言えないですけども、そういったことも前向きに考えていきたいと思っています。

3つ目の質問に対してですけども、現状、今、西尾市では、総合体育館とか中央体育館などでテニスとか卓球とかのスポーツ競技の教室をやっていたりだとか、あとはニュースポーツとって、ちょっとマイナー、マニアックな、余りオリンピックでやらないような新しいスポーツは、それぞれの学校の体育館などで教室といますか、そういうスポーツが出来るような場がありますので、そういったものに参加してください。具体的には市の広報などに載っていますので、注意して見てもらって、おもしろいなと思うものがあれば参加してほしいと思います。それ以外にも市民体育大会だとか、子どもの国でやっている駅伝だとか、あとは再来年の3月、来年度の3月になりますが、今から1年半後ぐらいにフルマラソン大会をやる予定で、今、準備を進めています。定員がありますが、子どもも参加できますので、もしフルマラソンを走ってみたいと思ったら、ぜひ申込をしてほしいと思います。

最後に、総合運動公園の提案がありました。これについては、実はなかなかひとつの場所につくるというのが現実的に難しい問題があります。今の総合体育館のところは、昔はその隣に野球場もつくろうとか、そういう計画があったのですが、あの場所は林が、木がいっぱい生えているため、環境を守ろうという視点で、余りいろいろなものを開発してつくったりするのがだめな、そういう規制が厳しい場所になります。昔は、総合体育館の近くにいろいろつくる予定だったのだけれども、今は現実的につくれなくなってしまいました。そういうスポーツ施設は充実させていきたいのですけれども、1カ所にまとめてというのは難しそうなので、市内の中でばらばらになってしまうかもしれないですが、皆さんが、例えば野球をやるときにちゃんとした公式の大会が出来ないという声も聞いているので、そういった大会が出来るぐらいの施設にはしたいとか、そういったところは頑張っていきたいと思っています。

ちなみに野球場を新しく1個つくろうとしたら、どれぐらいお金がかかると思われますか。どれぐらいの大きさにするかにもよるのですが、多分土地を買うことから含めると30億円とか、それぐらいするのです。だから、来年やりますとか、今年やりますということは言えなくて、もう少し長い目で見てほしいのですが、お金を積立てながら、そういった1個1個の施設もつくっていききたいと思っていますので、皆さんが中学校卒業とか、高校卒業には間に合わないかもしれないですが、大人になったころには、ある程度今よりも充実したスポーツが出来る西尾市になっていると思いますので、よろしくお願ひします。

以上です。

2番／浜崎祥太郎、堀内留楓、名倉美琴

以上で提案、質問を終わります。私たちの提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。ありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

ありがとうございました。

それでは、3番目の提案に入ります。佐々木さん、有吉さん、鈴木さん、よろしくお願いします。

3番／佐々木海了、有吉沙羅、鈴木優由

3年生の佐々木海了と有吉沙羅と鈴木優由が提案と質問をします。よろしくお願いします。

それでは、提案シートにしたがい、説明します。

僕は、上町に住んでいます。お茶の栽培が有名な場所で、西尾市が誇れる場所の一つであると思います。そんな自分の生まれ育ったまちに大地震が発生してしまったらどうなるのかと思うと心配です。今から30年以内に南海トラフ地震が発生する確率は高いとも聞いています。そんな状況の中、僕は大地震が発生したら、どうしたらいいのか正直分かりません。きっとパニックになると思います。クラスの友だちに聞いても、防災対策をしている家庭は少数でした。また、実際に大地震が発生したら、どうしたらよいか全然分からないという意見が多かったです。親は町内の避難訓練に参加しているみたいだけど、自分には行ったことがない、学校で避難訓練はしているけれども、地域の避難訓練があるのか知らない。という意見も聞きました。

防災に対する知識や経験が僕たち中学生には足りていないことが分かります。また、西尾市がどのような防災対策をしているのかについても、ほとんどの生徒が何も知らない状態でした。大人は西尾市が防災に対して、何をしているのか知っているかもしれませんが、中学生が知る機会が余りないように思います。だからこそ、中学生が防災のことを考える機会をつくるのが大切だと感じました。

そこで提案します。僕たちが市役所で配布されているハザードマップなどを参考にして、中学生目線の防災新聞を作成します。作成後、学校を通して学区の家庭に配布したり、学区以外の中学生にも意識を高めてもらうために、西尾市のホームページや「広報にしお」に掲載してもらいたいです。作成した新聞は別紙のとおりです。

新聞の内容は、校区ごとにエリアを絞って作成しました。

新聞に災害時の集合場所を書く欄を作成し、防災について家族で話し合うきっかけをつくってもらうことにしました。

校区ごとに避難場所や危険だと思われる場所を挙げました。

災害時に備えた備品を中学生目線で考えました。

西尾市が行っている防災対策を載せました。

以上が、僕たちが考えた提案です。

次に、取組の効果について説明します。効果は3つあると考えます。

1つ目は、中学生が防災に対する意識を高めることで、校区内にいるときに災害が発生した場合、少しでも適切な行動をとることができることです。

2つ目は、きっと通信手段は使えないので、あらかじめ集合場所を話しておくことで、災害が発生したときに家族と集合しやすくなります。

3つ目は、防災新聞に西尾市が行っている防災対策を載せることで、行政は自分たちのために働いてくれていることを中学生が実感できることです。

次に、取組を行った場合に考えられる問題点などを説明します。

防災新聞の情報源が、西尾市役所からのハザードマップと「広報にしお」だけなので、情報量が足りません。また、災害時はいろんなことが起こりますので、あらゆる状況に対応できるかどうか分からないということです。災害時、校区内にいないときはどうすればいいかも対応できていません。

そこで4つ質問します。

1つ目、中学生が防災に対する知識や経験を増やすために、市はどんな取組をしているのですか。

2つ目、地域ごとに避難所が決まっていますが、コロナ禍の中、本当に避難してよいのですか。避難所でのコロナ対応はどうなっていますか。

3つ目、避難できるとしても、大勢の人が集まる場所が苦手な人はどうしたらよいのですか。

4つ目、普段から防災無線の内容が聞き取りにくいのです。なぜですか。ほかに防災無線の内容が確認できる方法はありませんか。

提案した内容についての考えも含めて、ご意見をお聞かせください。

総合政策部長／高原 浩

どうもありがとうございます。発言が終わりましたので、市長、お願いします。

市長／中村 健

提案、質問をどうもありがとうございます。

防災というのは、市民の皆さんの命や家などの財産を守るという意味では、僕たち市役所の人間としては一番基本のところ、一番大事なところでもあると思っています。

市がやっていることを市民の皆さんに伝えるということは、いろいろ工夫しながら頑張っているつもりですけれども、今、発表してもらったようになかなか知らないよという話になると、結構反省としては大きいと思っています。

そういう中で皆さんが防災新聞をつくってくれたというのは、非常にいい取組みだと思いました。その中で、西尾市の取組みについても紹介してもらえると、それは僕たちにとってすごくうれしいことでもあって、本当にどうもありがとうございます。

まず、質問の1つ目です。防災に対する知識や経験を増やすためにということで、1つには、先ほどちょっとお話が出ていた防災アプリというものを、スマホなどを持っている皆さんはダウンロードしてほしいと思います。このチラシも後で配ってもらえるようですが、その中でハザードマップが見れたりだとか、AEDが市内のどこに配置されているかとか、防災の関係のお知らせなどの確認もできるので、1つにはそういったものを活用してほしいと思います。

少し難しい話になりますが、学校安全総合支援事業というものを西尾市でやっていて、毎年1つ中学校を選んで、そこを拠点校として防災教育を充実してやっています。まだ鶴城中学校には来ていないかもしれないですけども、そういったことをやっていますので、決して学校のことをおろそかにしているわけではありません。

また、実はちょっと前まで、池田先生が、学校と防災の連携を強めるために、教育委

員会から市の防災の担当部署に派遣されていました。愛知県でそういうことをやっているのは、実は西尾市だけです。体育館が避難場所になるので、学校としていざ避難するとき、どういうふうにすると一番連携が図れるのかというのは、現場の先生方の声も聞きながら、今やっているところなので、そういったところも知ってほしいと思います。

そのほか、ネットで西尾市防災と検索してもらおうとか、そういったことになってしまうのかなと思いますが、少しでも若い皆さんに市がやっていることを知ってもらうための努力は、これからも工夫してやっていきますので、よろしくお願いします。

2つ目のコロナ禍の中で避難所に本当に避難していいのかという話です。絶対に避難してくださいというのは、市役所からそういう指示とか勧告というものが出たときに、必ずしも避難所に行かないといけないというわけではないです。一番大事なことは、安全な場所に身を置くということです。

例えば地震ではなく、台風などで雨が強く降ったとき、自宅の2階に避難すれば大丈夫だというときには、わざわざ雨が強い中、体育館まで行くと逆に危ないかもしれないので、そういった判断をどうするのかというのは難しいところですが、家族の皆さんと話をしてもらって、これぐらいの状況なら家の2階に行けば大丈夫だろうとか、ちょっとうちの家は古いから体育館とかに避難しないといけないねというのは、日ごろからよく話をしておいてほしいと思います。

ちなみに、もし避難所に避難してこられた場合でも、今、消毒液とかマスクとか体温計などを用意していますし、もし体調が悪い、コロナが疑われるような方がいた場合には、部屋を分けて避難してもらおうとか、そういったこともやっています。なるべく避難所でもクラスターが発生しないような形には努力していますが、家にいて安全ならば、家で避難することも考えてほしいと思います。

3つ目は、避難できるとしても大勢の人が集まる場所が苦手だと、そういう人もいるかと思いますが。例えば体育館に避難してもらったときでも、体育館の広さは決まっているので、人がたくさん来たらぎゅうぎゅうになってしまう可能性はゼロとは言えないですけれども、パーティションなどの仕切りを使って、なるべくプライバシーに配慮した形で避難してもらおうということは考えています。避難所に行ったら、寝るときも起きているときも誰に見られているかわからないということはないのではないかと思います。

最後、4つ目の防災無線の話です。これは、皆さんの住んでいる場所にも大きく関係してきますので、逆に僕が住んでいる家は、すぐ近くに防災無線があるので、防災無線の音が大き過ぎたりします。いろいろなところにスピーカーがあって、音が重ならないように方向を調整していたりすると、物理的な音声で情報を伝えようとするので、どうしても無線から近い家は大きく聞こえるし、遠い家は音が小さくなってしまいうのは解消しようがない部分ですので、音が大きい人には、申しわけないけれども大事な情報なので、そこは我慢して聞いてくださいということになります。聞こえない場合については、市の危機管理課というところがあるので、例えば町内会長さんから連絡をいただければ、なるべく聞こえるようにと対応はしていますが、防災無線だけに頼るのではなく、このチラシの中にも紹介してあるように、要はメールや電話でも同じように情報が確認できるような形にはなっていますので、もしピンポンパンパンはわかったけれども、何を言っているのかわからないというときのためにメールに事前に登録しておくとか、決まった電話番号に

問い合わせしてくれると、同じ情報が聞けるようになっていきますので、そこも承知しておいてほしいと思います。

最後に、皆さんにお願いではないですけども、さっきの発表の中で、親は親で地域の防災訓練などがあるのは知っていても僕たちは知らないよとか、学校でこういうことがあったけれども、親や地域の人には知らないということがあるかと思います。そこは、僕たちも多くの人に知ってもらえるように努力をしますが、やっぱり皆さんが、お父さん、お母さんや近所の人などと日ごろからコミュニケーションをとって、こういうことをやっているんだねとか、もしものときはどういうところに避難したらいいんだねということを一方向的に教えてもらうのではなく、話をいろいろする中で、うちの地域はここに避難するんだとか、今、こういうことをやっているんだということを自分から情報を取りに行くということもしてもらえると、この防災についてはすごくいいのかなと思いますので、お願いします。僕からは以上とさせていただきます。ありがとうございました。

3番／佐々木海了、有吉沙羅、鈴木優由

私たちの提案を参考にさせていただけることをうれしく思います。ありがとうございました。

以上で提案、質問を終わります。

総合政策部長／高原 浩

皆さん、どうもありがとうございました。

以上で出させていただきましたすべての提案、質問は終了いたしました。

それで、3時までお時間がまだ少し、7、8分ありますので、フリートークの時間とさせていただきます。市長、よろしくをお願いします。

市長／中村 健

今の3つのテーマで、僕の答えがちょっとわからないことがあって聞くとか、この3つのテーマとは関係なくても、せっかく市長と話せるのだから、これ聞いてみたかったなみたいなことがあれば、そこは自由に話をしてください。別に先生に怒られることはありませんので、よろしくをお願いします。あれば手を挙げてください。

生徒

休みのときとかは、何をやって過ごすのですか。

市長／中村 健

そういう質問はいいですよ。コロナ前は、結構土曜日、日曜日はいろいろなところに呼んでいただいて、顔を出しながら話をお聞きしたりしてコミュニケーションをとっていましたが、コロナが広がってからのというのは、いろいろな集まりだとかイベントがないので、今は、土曜日、日曜日で家にいることも結構あります。本当にプライベートな話ですけども、子どもが男の子2人いて3歳と1歳です。妻が子どもの世話をするだけでも結構大変だったりするので、土日で家にいるときは、子どもと遊んでいることが多いです。

生徒

先ほどもあったとおり、私は陸上部に入っていて、総合グラウンドがほかの市と比べると土ですごく走りにくくて、うまく記録が出せなかったりする子もいます。タータンを考えてくれていますか。

市長／中村 健

質問ありがとうございます。来年、再来年で個別の競技ごとにどういう施設をつくっていくかという計画を策定していく予定で、陸上なら陸上の団体さんなども含めて意見を聞いていますので、なるべくそれが実現できるように計画をつくっていきたいと思います。

野球場と陸上競技場を同じ場所でやるというのは、なかなか無理があると思っていますので、そこは問題意識を持っていますので、よろしくお願いします。

生徒

僕はスケートボードをやっていますが、最近、碧南のほうにスケートパークが新しく出来て、そこにすごく人が入っています。西尾で滑れる環境が少ないので、新しくスケートパークをつくって、いろいろな人がもっと西尾に遊びにきてほしいなと思っているのですけれども、スケートパークをつくってくれませんか。

市長／中村 健

ありがとうございます。

今、西尾市だと、ちなみにどこが滑れるかというのは知っていますか。

生徒

23号線の下のところとか、古川公園のところとか、あと緑町のほうは滑れます。

市長／中村 健

ありがとうございます。

スポーツといってもいろいろな競技があると思いますが、その競技をやる人の数などもあるので、どの順番でスケートボードをやれる場所を整備するかというのは、今言えませんが、スケボーをやりたい人も当然いますので、そこは参考にさせてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

生徒

ありがとうございます。

生徒

橋本環奈は好きですか。僕は好きです。

市長／中村 健

知っていると言えば知っているんですが、好きか嫌いかというと、余りドラマとかも

最近見なくなったので、好きか嫌いかは不知道です。僕が皆さんぐらゐの歳ゐのときには、アイドルとかは、多分モーニング娘が走りだだだと思ゐます。自分の親ぐらゐの歳の人たちが、アイドルとか女優さんがみんな同じ顔に見えると言っていたのが信じられなかったのですけれども、今、僕は41歳で、ちょっとそのときの親の気持ちがわかって、橋本環奈はわかりますが、新しい女優さんとかアイドルは区別がつかなくなってきたてしまっています。

生徒

ありがとうございます。

生徒

中学生の友だちと遊ぶときに、どこで遊ぶと聞くと、みんなヴェルサウォークと言うのですけれども、市長さんならもっといい場所を知っていると思ゐるので、おすすめの場所を教えてくださいたいです。

市長／中村 健

ちなみにどういったことで遊ぶのが好きですか。

生徒

友だちとおしゃべりが一番好きです。

市長／中村 健

西尾市内でということになると、中高生の皆さんがなかなかここで遊びたいというのが余りないのが西尾市の課題だと思ゐます。

例えばということ聞いてほしいのですが、イオンとかが出来るといいなと思ゐますよね。ただイオンをつくろうと思ゐると、前の質問でもあったのですが、法律の規制などが厳しかったりして、なかなか西尾市の中で、もしイオンさんが西尾市で店を出したいと言っても、そういう規制が問題になって出来ないような事情があります。映画館なども、コロナのような施設があったらいいなと思ゐますよね。そういった話が会社からあったときには、協力していききたいと思ゐますので、よろしくお願ひします。

生徒

ありがとうございます。

生徒

南海トラフの地震って、津波って来るのですか。鶴城に来ますか。

市長／中村 健

僕の後担当の職員の局長さんがいて、補足の説明をしてもらいますが、歴史上の話で言うと、そんなに西尾のこちらのほうまで津波が来る、来たということは多分ないと思ゐます。しかし、今は、今まで歴史上、来ていないから来ないというのが通用しない時代

になってしまったので、今まで一回も来ていないけれども、来るかもしれない可能性にも備えないといけないような時代になってしまったと思います。過去に来たことがないからといって安心するのではなく、来るかもしれないという気持ちはもってほしいと思います。局長から補足をさせていただきます。

危機管理局長／山本吉明

今、南海トラフということで想定されている最大の浸水域がハザードマップで示してあります。あそこまでは最悪津波が来るかもしれないということで、身を守るためにハザードマップでまずは自分のところは、この鶴城中学校区だと余り浸水域はないかと思えますけれども、海岸部のほうは、ほぼ5メートル以上、4メートルぐらいの浸水エリアと今は想定はされていますので、最悪、それぐらいまではということです。

今年の3月に新しいハザードマップ、想定したものを発表しますので、それは全戸配布します。また、皆さん、先ほど市長からPRがありましたけれども、防災アプリという、その地図のほうにもそういった情報を反映させますので、皆さんのご家族にも話をさせていただいて、ダウンロードしてもらおうと、自分の今住んでいるところがどれぐらいの浸水エリアになるかわかります。それについては、地震だけではなくて洪水のほうも出てきますので、近くの避難所はどこかといった、そういった情報も出します。ぜひともお父さん、お母さん方にもアプリをダウンロードしていただいで使っていただくと、今後の役に立つかなと思いますので、よろしくをお願いします。

生徒

ありがとうございます。

総合政策部長／高原 浩

せっかく調子が出てきたところでありますが、そろそろ予定の時刻となりましたので、これで終了とさせていただきます。

それでは、岩瀬校長から講評をいただきたいと思います。お願いします

校長／岩瀬豊治

それでは、3つ話をします。1つ目は市長の小学校時代、2つ目は今日の提案について、3つ目は国民主権といいますか、将来を生きていくみんなに求めたいことです。

1つ目の市長の小学校時代。中村健市長は、僕が三和小学校の4年5組、5年生、6年生の3年間担任をしました。級長とか室長とかに非常に立候補する子で、それで積極的かという、そうでもないですね。ただし、人の意見はよく聞きます。一緒に級長をやった女の子がちゃきちゃきの女の子で、この子をうまくなだめながらクラスをまとめていくタイプでした。部活動は水泳部でした。

授業でいうと、ぼーっとしていて絶対私の話を聞いていないと思って当てると、すっと答えてしまう。聞いていないように見えて、聞いていてすっと答えてしまう子でした。私もまだ若くて、28歳ぐらいですから、道徳の研究授業と社会の研究授業を西尾市の教員が集まって、見にくる授業をやったのですが、そのときに中村健という児童は、最初、

簡単な問題には手を挙げません。みんなが手を挙げるときには挙げません。最後、そろそろ自分の出番だなど、そろそろみんなの考えをまとめないといけないなというとき、さっと挙げて「まとめていいですか」と。そんな子でしたが、常に最終的に人の意見を聞いてまとめる力は、その当時からすごくありました。それから、意見を根拠を基に言う力をもっていました。ほめているわけではありません。

2つ目ですが、今日の提案ですが、1つ目のデジタル化、今の日本の問題です。日本のこれからの問題。それからスポーツ、中学校の防災というのは、西尾市の問題でもあります。

デジタル化というのは、本当に日本は避けて通れない問題ですから、これからは皆さんは進めて行ってほしい、意見を言ってほしいと思います。それから、西尾市は良いまちなんだけれども、魅力に欠けますね。良いまちなんだけれど、これといったものがない。ただし、西尾というのは、工業があるし、農業があるし、漁業があるし、そういった意味では非常にバランスの良いまちである。こんな市はないです。だから、その市をまとめて、うまく魅力をつくっていくといいのではないかと。住むにはたいへん住みやすいところだと思いますので、そういう点で皆さんがここに挙げていたテーマというのは良かったと思います。

3つ目は、皆さんは3年後にはもう選挙権を持つわけです。政治に参加するわけです。昨日も大阪都構想、明日、世界で大きな選挙がありますよね。そのときに一番大事なものというのは、やはり人を納得させる根拠をもって話す。今日、皆さんは根拠がありました。根拠があって話せていました。そういう力を磨いていくといいと思います。

やはり、今、何が課題なのかという課題を発見する力、それから、それを基にどう取り組んでいったら、その課題が解決するかという力、それから自分の味方を、民主主義というのは多数決ですので、少数意見をいい加減にしていいという問題ではないけれども、多数派、多数の人が納得すれば政治は動くわけですから、そういう意味で根拠を基に考える力。できたらデータも1つや2つでなく、いろいろなデータを総合的に判断して言うと、説得力ある意見になると思います。そういう力を磨いていくと、豊かな人生が待っていると思います。

今日は市長、ありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

どうもありがとうございました。本日、皆さんからお聞きしたご提案などは、今後の市政運営の参考にさせていただきたいと考えております。

それでは、閉会にあたりまして、市長からお礼のごあいさつを申し上げます。

市長／中村 健

皆さん、今日は本当にどうもありがとうございました。校長先生からお話がありましたとおりに、いろいろ根拠を伴って、自分なりに考えて、西尾市のためを思って提案をしてくれたのだなというのがすごく伝わりましたので、非常にうれしく思っています。

ここからは、皆さんに2つのことをお伝えして、感謝の言葉と激励のエールにさせてもらいたいと思います。

1つ目は、簡単に言えば夢を持ってほしいということです。将来、どういう職業に就きたいとか、何がやりたいとか、自分の中でこれがやりたいんだと、誰に何を言われようとも私はこれがしたいんだと、これになりたいんだというものを見つけてほしいと思います。

後悔という言葉があります。やった後悔とやらなかった後悔でいうと、やらなかった後悔のほうが圧倒的に大きいです。皆さんがこれから大人になっていくにあたって、いろいろな挫折とかを味わうこともあると思いますし、いろいろな困難に直面することもあると思います。そのときに何かを諦めて、諦めたことが正しかったと自分に思い込ませることがあるかもしれないです。それがいけないとは言えないのですが、いろいろな困難にぶち当たっても、自分が本当にやりたいということをやり通してくれたら、きっと後悔というのはないと思いますし、自分の人生がすごく充実したものになると思うので、それが見つけられるか、見つけられないかは人によって差があるので、今の段階で見ついている人は、その夢に向かって全力で頑張ってもらいたいし、それが見つからない人についても、「私、見つからないけど大丈夫なのかな」と不安に思わずに、いつか見つかるものだと思うので、見つけてほしいと思います。

2つ目は、自分に何が出来るんだろうと、何か問題にぶち当たったときにそれを考えてほしいと思います。誰かがやっていることに対して、批判をしたりだとか、評論家みたいに「もっとこうすればいいのに」とかと言うのは簡単なのだけれど、口だけ言ったところで、世の中が良くなるわけではありません。その問題や課題に対して、自分が何が出来るのかを考えて、そのことに対して、じゃあ行動を起こしてみようという行動が起きると、それは解決につながる一歩になるし、世の中が良くなっていく一歩になると思います。皆さんが何を課題や問題と思うかは、人それぞれ違うかもしれないけれども、それに対して自分に何が出来るか、何をしようかと思って行動を起こしてもらおうと、それは最終的には西尾市が良くなっていく一番の近道だと思います。今、2つのことをお願いしましたけれども、それを実践しながら、学校生活を頑張ってもらいたいと思います。そして、最終的には、大きくなってからは、出来れば西尾市にいて、西尾市の活性化に力を貸してもらえると、とてもうれしく思いますので、皆さんの活躍を期待して、今日の感謝の言葉にさせてもらいたいと思います。どうもありがとうございました。

総合政策部長／高原 浩

皆さん、本日はどうもありがとうございました。

以上をもちまして、学生議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会